

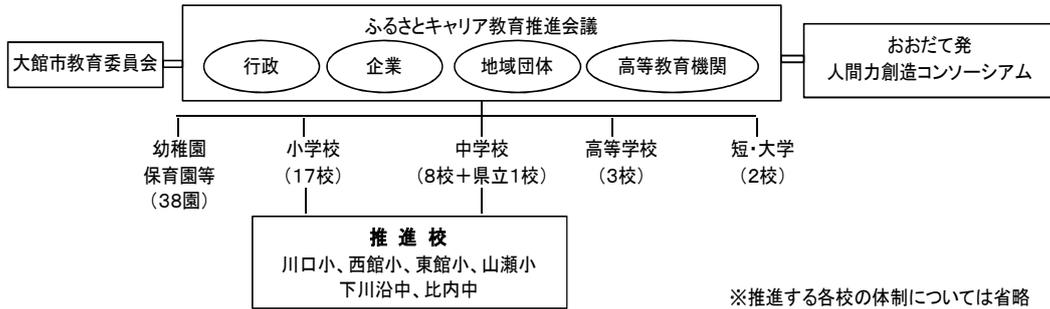
「小・中学校等における起業体験推進事業」実施計画書

1. 実施主体	
本事業を受託する教育委員会	秋田県教育委員会
2. 現状及び課題	
学校及び地域におけるキャリア教育の現状	<p>【県全体において】 秋田県教育委員会では、平成5年度から「ふるさと教育」を学校教育共通実践課題として推進してきたが、人口減少等による経済規模の縮小、地域社会存続への懸念等、様々な課題に直面している。平成27年度からは、第2期あきたの教育振興に関する基本計画の下、ふるさと教育等との関連を図った「地域に根ざしたキャリア教育」に取り組んでいる。県内の学校では、地元企業等と連携した商品開発の取組や、修学旅行等で地域のよさをPRする活動、地域の祭りへの参画や名所での観光ボランティア活動等が盛んに行われ、地域の活性化に貢献するキャリア教育の充実が図られてきつつある。</p> <p>【推進地域において】 大館市は、ふるさとの未来を切り拓く人材を育成する「ふるさとキャリア教育」を教育理念に据え、5年が経過している。「大館盆地を教室に、市民一人一人を先生に」をコンセプトに、全小・中学校が、学校経営の柱として、自校の課題と地域の特色から創り上げる実践的キャリア教育（以下、百花繚乱作戦）を展開している。現在、「ふるさとキャリア教育」は、保護者をはじめ市民にも広く知られるようになり、各学校が地域の元気発信基地となっている。また、地域活性化、地方創生に結び付く有効性が認識され、市の総合計画や総合戦略にも位置付けられる施策になっている。</p> <p>八峰町においては、このような県の方針に基づき、各校でキャリア教育の視点を重視したふるさと教育が推進されている。町内にある三つの小学校と二つの中学校では、学校区の特色を生かしたキャリア教育、ふるさと教育の全体計画を策定し、各教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間との関わりを明らかにしながら取組が進められている。小学校では、日本海、世界自然遺産白神山地、ジオパーク等の豊かな自然環境を学習のフィールドにして行われる体験学習、地域の伝統文化や人々にふれる体験学習、農業や漁業などの一次産業に代表される地域の産業に関連した栽培学習などが主に実施されている。中学校では、地域の産業にふれる職場体験学習を実施したり、地域の活性化に貢献する活動として「特産品販売」を行ったりしている。</p>
学校及び地域におけるキャリア教育に関する課題	<p>【県全体において】 本県における喫緊の課題は、「自らの未来を切り開き、社会に貢献する人材の育成」である。県教育委員会では、秋田の未来を担う人材育成の観点から、これまで「わか杉県政体験」等を企画・運営するとともに、地域に根ざしたキャリア教育を推進してきた。秋田に暮らし、秋田を支えるという若者の意識を高めるためには、小・中学生のうちから地域や企業と連携させ、様々な体験から得る感動を味わわせるとともに、将来に生きて働く力を身に付けさせることが大切である。そのため、地域の財産を活用して推進していく本事業を、市町村教育委員会と連携・協働していくことが必要であると考えている。</p> <p>【推進地域において】 大館市の起業家教育としては、学校と地域が一体となってひまわりの栽培から油の販売までを行う「釈迦内サンフラワープロジェクト」の実践をモデルにし、各校とも枝豆やリンゴなどの多様な6次産業化に取り組んでいる。しかし、活動を支える地域の団体等の協力や支援が得られない学校では、教職員の力だけでは限界もあり、なかなか子どもたちの思いや願いを活動として形にすることができないなど、取組に差が見え始めている。また中学校においては、地域貢献活動が中心となっており、起業家精神の育成に関わる教育活動にまでは至っていない。</p> <p>八峰町では、学校区の特色を生かしたキャリア教育の実践がこれまでも継続的に行われてきており、それぞれ一定の成果を上げてきている。しかし、来年度（平成28年度）には、三つある小学校が統廃合により2校に、二つある中学校は1校になる。これまで実施してきたキャリア教育のフィールドが広くなり、それぞれ独自に行ってきた学習計画を見直し、新たな計画を立案する必要がある。統合校においては、統合前のそれぞれの学校で実施してきたことをミックスして実施するというような単純な全体計画、学習計画で実施することは困難であり、地域に根ざしたキャリア教育を推進するために、地域を捉え直した新たな取組が必要である。</p>

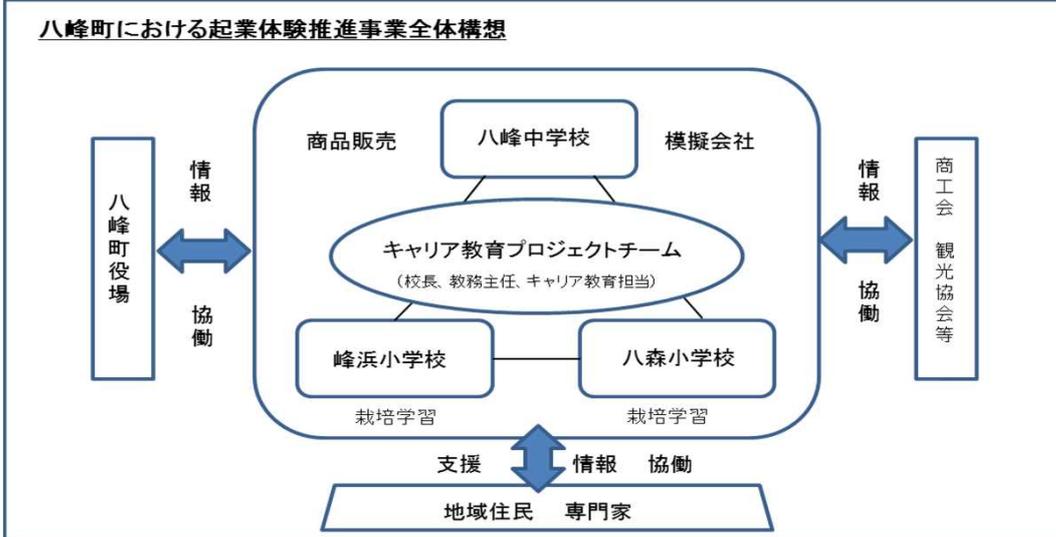
3. 委託内容に対する取組	
実施する学校	<p>【大館市】 大館市立川口小学校、大館市立西館小学校、大館市立東館小学校、大館市立山瀬小学校、大館市立下川沿中学校、大館市立比内中学校</p> <p>【八峰町】 本町には現在小学校が3校、中学校が2校あるが、学校統合により平成28年度から小学校が2校、中学校が1校という体制になることから、町内の全小・中学校で実施 八峰町立峰浜小学校、八峰町立八森小学校、八峰町立八峰中学校</p>
目標	<p>【大館市】</p> <ol style="list-style-type: none"> ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備え、ふるさとの未来を切り拓く総合的人間力である「おおだて型学力」を育成する。 <ol style="list-style-type: none"> ふるさとのひと・もの・ことに直接触れる体験を通して、ふるさとへの愛着や誇りを醸成する。 身近な大人と共に、地域活性化の取組に参画することにより、ふるさとも起業できるという手応えを実感させる。 6次産業化の活動に取り組むことで、実社会の中で課題解決力、組織力を実践的に育成する。 発達の段階に応じて、「人間的基礎力」「大館市民基礎力」「大館市民実践力」を育成することで、地域でたくましく自立し、地域の将来を担おうとする未来大館市民を育成する。 <ol style="list-style-type: none"> 地域のよさに触れる直接体験を通して、人間的基礎力（人間性・道徳性・社会性・基本的な生活習慣・健康等）を育成する。 地域の人と共に働きながら問題解決的な経験を通して、大館市民基礎力（主体的実践力・創造力・組織力・協働力・情報把握力・発信力等）を育成する。 地域のために自分達のできることを考え実行する体験を通して、大館市民実践力（社会的使命感・社会変革力・社会貢献力等）を育成する。 <p>【八峰町】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自ら学び自ら考え、課題を追求する力 <ol style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人の生活の舞台であるふるさとが、自然や文化、人材等に恵まれていることに気付かせるとともに、それらとのふれあいを通して実感的、体験的、総合的に学ぶ場を充実させて意欲的に学ぶ力を身に付けさせる。 ふるさとを多面的に捉えさせ、課題を明確にして学習活動に取り組ませることにより、よりよく問題を解決する資質や能力を身に付けさせる。 習得した知識や技能などを実際に学習や生活の様々な場面で生かし、持続可能な地域社会づくりに貢献する力を身に付けさせる。 公共の精神をもち、ふるさとの将来を支えていく力 <ol style="list-style-type: none"> ふるさとの歴史や伝統の理解を深めさせ、様々な情報を活用するとともに、将来の展望について進んで考える力を身に付けさせる。 地域社会の願いを受け止め、自ら学んだことを地域の活性化につなげられるよう、考えを発信する力を身に付けさせる。 自らが生まれ育ったふるさとに愛着をもち、ふるさとに誇りをもって、地域と協働する力を身に付けさせる。
取組計画	<p>【大館市】 各校の百花繚乱作戦において起業家教育を推進するために、活動を支援・助言できる地域の諸団体からなる「ふるさとキャリア教育推進会議」を組織し、各推進校の教育活動をバックアップする体制をつくる計画である。また、起業家、実業家等を講師に招き、集会や総合的な学習の時間だけでなく、教科の授業においても人材を活用し、経済等についての学習機会を設ける予定である。起業家、実業家から、6次産業化した製品を販売するための指導を受けることで、実際に地域のイベント（きりたんぼまつり、産業祭等）で成果を実感する場を設ける。 推進校の活動については、広報（みんなのまなび新聞、ホームページ）等で全小・中学校へ紹介し、更なる刺激となるようにする。また、教職員実践発表会等において、実践を教職員や市民に周知したいと考えている。</p> <p>【八峰町】 学校統廃合で町内の学校が2小学校・1中学校になることにより、地域を捉え直した新たなキャリア教育の推進が必要となる。これまで、各小学校では地域と連携した食農体験学習がそれぞれ行われており、中学校では、統合前の一つの中学校で特産品販売が行われてきた。そこで、小学校で栽培される農作物を素材にして、中学校で商品開発及び製造委託、販売を手がける、いわゆる起業家体験を実施したいと考えている。そのためには、域内の商工会、観光協会、JA、産直施設等の関係団体からの協力が欠かすことのできない要素となる。また、地域の課題等を知る上では、町役場の産業振興課及び企画財政課等との連携も欠かせない。また、実際に域内で起業している起業家からの講話を聴いたり、模擬会社を設立するためのノウハウを専門家からアドバイスしてもらったりする機会も設けなければならないと考えている。このようにして、町全体を学習のフィールドと捉え、4月から翌年2月までを学習期間と考え、実践していきたい。</p>

(1)学校において起業体験活動を実施するためのモデルの構築

【大館市】



【八峰町】



- 1 キャリア教育プロジェクトチーム(PT)は全体計画を策定し、それに基づき各校で取組を進める。
- 2 小学校で栽培した農作物等を使って、中学校では模擬会社を設立し、商品販売等を行う。
- 3 事業のまとめとして、域内への普及のため「八峰町キャリア教育シンポジウム(仮称)」を開催する。

②授業をサポートする団体(予定でも可)

【大館市】

(予定) 秋田職業能力開発短期大学校、大館商工会議所、大館青年会議所、連合婦人会、市役所(商工課)、NPO北男女共同参画センター、J A、陽気な母さんの店、立花ファーム、秋田銀行、エグスペシア、大館ボンダール、北鹿新聞社、PTA連合会

【八峰町】

八峰町役場(産業振興課、企画財政課)、八峰白神商工会、八峰町観光協会、秋田やまもと農業協同組合、秋田県漁業協同組合北部統括支所、八峰町PTA連合会

③取組内容

【大館市】

- 1 実施期間 平成28年7月～平成29年2月
- 2 教育課程上の位置付け
 - ふるさとキャリア教育における百花繚乱作を(各校のキャリア教育のメインとなる活動)は、学校経営の柱に据え、全教育活動を通して実施する。
 - (1) 小学校 生活科・総合的な学習の時間を中心に、各教科、道徳・特別活動、その他の教育活動(地域と連携した活動)で実施
 - (2) 中学校 総合的な学習の時間(職場体験)を中心に、各教科、道徳・特別活動(全校キャリア集会、ようこそ先輩)で実施
- 3 教科等とのつながり
 - (1) 教科 国語(インタビュー、パンフレットづくり、プレゼンの仕方、意見文)、社会(地域産業、働く人々、税)、図画工作/美術(ポスターや商品のラベルのデザイン)、家庭/技術・家庭(商品開発、情報発信)
 - (2) 道徳・特別活動 自立・希望・強い意志・創意進取・勤労・郷土愛等に関する内容、「わか杉っ子キャリアノート」の活用、係活動等

- 4 授業の進め方
- ・各校が取り組んでいるテーマによるそれぞれの学年の活動について、地域や企業の支援を受けながら、栽培や商品化、販売の活動の充実を図る。（商品化に向けた助言や技術的な連携、販売のためのノウハウ）また、中学校においては、起業精神についての講話、起業家から体験談等を聞く集会を開催する。
 - ・活動を披露する場として、地域のイベント（産業祭、きりたんぽまつり、地区商工祭）に出店し、活動紹介や製品PR・販売を行う。
 - ・市の教職員研修会やPTA研修会、地域企業の講演会等で、各校の取組を紹介し、成果を周知する。

【八峰町】

- 1 実施期間 平成28年4月から平成29年2月まで
- 2 教育課程上の位置付け
 - (1) 小学校 ・生活科、総合的な学習の時間で実施（時数は各校で）
 - (2) 中学校 ・総合的な学習の時間で実施
 - ①1年は職場体験 ②2年は特産品販売（他地域で） ③3年生で起業家体験学習
- 3 2以外の教科等とのつながり
 - (1) 教科
 - ・表現する力、理解する力（国語）
 - ・資料を読み取る力、観察や調査する力（社会）
 - ・表やグラフを使って表現する力（算数・数学）
 - ・課題設定や観察、実験をする力（理科）
 - ・商品開発をする力（技術・家庭）
 - ・情報を発信する力（技術・家庭）
 - (2) 道徳 「郷土愛」「礼儀」「人間愛、思いやり」「尊敬、感謝」「勤労、奉仕、公共の福祉」
- 4 授業の進め方等
 - ・小学校では、これまでの取組を生かし、地域人材との協働による栽培学習を行う。
 - ・中学校では、これまでの職場体験、特産品販売のノウハウを生かし、3年生で起業家体験を行う。
 - その際、事前に専門家を招聘し、起業することの意義、秋田県における起業の状況、起業するために必要な法知識やノウハウを学ぶ機会を設ける。その後で、地元の商工会等の支援による学習の機会を設けワークショップ等を行い、どのような会社を設立するかを決める。その後、商品開発、販売、広報・宣伝、店舗等の担当に分かれて準備を進め、店舗での販売活動を実施する。
 - ・まとめとして、「八峰町キャリア教育シンポジウム（仮称）」を開催し、普及啓発活動とする。

①域内の学校への普及方法について

【大館市】

- 1 進路指導協議会（各校1名）、大館市教職員実践発表会において事例発表
- 2 「みんなのまなび新聞」を通して、各校へ周知
- 3 百花繚乱作戦のリーフレットで紹介

【八峰町】

- 1 地区の教育研究会（能代山本教育研究会）の進路指導部会での発表
- 2 秋田県教育研究発表会での事例発表
- 3 秋田県校長会研究大会での事例発表
- 4 地域の新聞への掲載を依頼
- 5 地域のテレビ局に取材を依頼

②地域・保護者等への周知方法について

【大館市】

- 1 地元新聞への情報提供、掲載
- 2 各種イベントへの参加により、活動を周知
- 3 「みんなのまなび新聞」を市内の公民館や市役所・支所等に掲示
- 4 教育委員会や各校のホームページへの掲載

【八峰町】

- 1 八峰町広報への記事掲載
- 2 八峰町キャリア教育シンポジウム（仮称）を八峰町PTA連合会との共催で開催
- 3 各校の取組を保護者や地域住民との協働により推進
- 4 各校の校報に取組について掲載

(3)その他の取組	
【大館市】 県内外からの視察、講演依頼の際には、ふるさとキャリア教育の紹介とともに本事業についてもふれる。	
【八峰町】 地域おこし協力隊や地域興しを目的としているNPOと協働する。(事業に参画してもらう)	
4. スケジュール	
実施時期	実施内容
【県】	
平成28年7月	事業推進協議会開催
平成28年7月上旬	事業推進校学校訪問(企画についての指導・助言)
平成28年7月下旬	事業推進地域訪問(連携企業等との懇談)
平成28年8月	各推進地域の児童・生徒による実践企画発表会(於:平成28年度わか杉県政体験)
平成28年11月中旬	各推進地域の児童・生徒による成果発表会(於:平成28年度キャリア教育実践研究協議)
平成28年11月下旬	事業推進校学校訪問(中間評価)
平成29年3月	事業終了
【大館市】	
平成28年5月	ふるさとキャリア教育推進会議の立ち上げ(委員の選定と依頼)
平成28年6月	各推進校の年度計画提出、ふるさとキャリア教育推進委員会①の開催
平成28年7月～	各校の百花繚乱作戦や授業に対して、関係機関からの支援 高校、大学との連絡協議会 推進校の中学校1～3年生を対象とする「起業家」講話
平成28年8月	全国学力・学習状況調査の質問紙の関係項目結果を分析、評価
平成28年10・11月	推進校小学校6年生によるきりたんぼまつりでの販売体験・産業祭での実践発表 推進校の中学校1～3年生を対象とする「起業家」講話
随時	「みんなのまなび新聞」発行、ホームページ更新、地元新聞への情報提供
平成28年12月	進路指導協議会での事例発表
平成29年1月	教職員実践発表会での事例発表 ふるさとキャリア教育推進会議②の開催
平成29年2月	各推進校による事業の評価 県学習状況調査の質問紙の関係項目結果を分析、評価
平成29年3月	事業の報告書作成
【八峰町】	
平成28年5月	キャリア教育プロジェクトチーム(PT)を立ち上げ、事業推進の計画を立案する。 PTから各校での取組について依頼するとともに、関係団体等へも協力依頼する。 児童生徒の意識アンケートを実施する(1回目)。 専門家を招聘した学習会を実施する(中学校1～3年)。 栽培学習が始まる(小学校1、2年生活科、小学校3～6年総合的な学習の時間等)。
平成28年6月	起業に必要な学習会が始まる。(中学校2、3年、隔週 2時間扱い)
平成28年7月	模擬会社を設立し、部門ごとの取組が始まる(中学校3年)。
平成28年9月	専門家を招聘した講演会(小学校5、6年、中学校1～3年、保護者)を実施する。 PTによる八峰町キャリア教育シンポジウム(仮称)の準備会議を開催する。
平成28年10月	店舗での販売を実施する(中学校2、3年)。
平成28年11月	八峰町キャリア教育シンポジウム(仮称)を開催する。(実践発表、パネルディスカッション) ※なお、参加者は小学校5、6年、中学校1～3年、保護者、地域住民、教育関係者、 起業関係者等を想定している。
平成28年12月	児童生徒の意識アンケートを実施する(2回目)。
平成29年2月	秋田県教育研究発表会で実践発表する(発表者は八峰中学校進路指導主事を予定)。 ※なお、PTの会議は必要に応じて開催する。

5. 取組により見込まれる成果とその検証方法

【県全体において】

- ・「小・中学校等における起業体験推進事業」の推進において、学校と企業等が連携しながら地域社会全体でモデル地域づくりを行い、各推進地域における起業体験等に係る取組を充実させることにより、地域全体での意識の高揚が図られ、継続した取組につながるものと思われる。さらに、推進地域の取組を様々な形で発信することにより、県内のキャリア教育の充実が図られ、産業の活性化にも結び付くものと考えられる。
- ・本県は他者と積極的に関わる力については課題があり、“「問い」を発する子ども”の育成を最重点の教育課題として、具体的な取組を進めている。地域や企業と連携した取組において、多様な他者と協働しながら主体的かつ創造的に商品開発等に関わることで、将来に生きて働く力を身に付けさせることができると考えられる。
- ・平成28年7月の事業推進協議会において、各推進地域の実践に対する検討を行う。また、事業推進校等への訪問を通じて、実践についての具体的な指導・助言を重ね、11月には中間評価を行う。
- ・事業の実施により「起業家体験推進事業」を推進するモデル地域づくりを行い、成果の検証については県教育委員会への報告を行う。

【大館市】

1 見込まれる成果

- ・起業体験を通して、地域の人々と共に汗を流す中で、または、講話を通して地元の産業を支えてきた身近な大人の生き方や職業観にふれることで、地元に貢献しようとする気概が育まれる。
- ・活動の中で地域の反応や声に直接ふれることにより、やりがいや喜びを感じ、自己肯定感をむことができる。
- ・社会の中での本物体験により、子どもが自分の可能性を広げるチャンスを自分でつかもうとする主体やたくましさを培うことができる。
- ・子どもたちと共に活動する中で、地域住民や企業も自信と誇りを高め、市全体の活性化へ波及するとともに、地域全体で人材を育成しようとする機運が醸成できる。

2 検証方法

- ・全国学力・学習状況調査、県学習状況調査の質問紙の関係項目（地域貢献、自己肯定感、自尊感情等）における意識の変容を前年度と比較する。
- ・学校評価の結果及び児童生徒、保護者、職員の聞き取りによって意見を把握する。

【八峰町】

1 見込まれる成果

- ・児童生徒がふるさと八峰町の一員としての自覚を高め、目標とする力を確実に身に付けることによりふるさとを支えていこうとする人材の育成に寄与する。
- ・学校が中心となって実施する事業であるが、地域への波及効果はかなり大きく、この取組より地域が活性化することが期待される。
- ・学校と地域が支援する関係から協働する関係へと変化することにより、持続可能な地域づくりへの機運が醸成され、地域とともにある学校づくり（学校運営協議会制度）の実現に弾みがつく。

2 検証方法

- ・生徒のアンケート結果により、生徒の自己有用感や郷土愛や挑戦心などの高まりが見られれば、事業の効果が認められるものと考えられる。
- ・保護者や地域住民からの声を集め、生徒の変容や地域の意識変化を確認する。